

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

※大問5題。昨年度から各大問ともに小問数は8問で、総マーク数は40となっている。

出題の特徴や昨年との変更点

地誌分野2題, 系統地理分野3題で昨年度と同じであり, 本学の標準的な出題構成となっている。正誤判定や統計判定が中心で, こちらも本学の標準的な出題形式。思考力よりも知識力を問うものが多い。昨年まではすべて4択問題だったが, 本年度から一部に6択の組み合わせ問題が含まれている。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	北アメリカ地誌	地図利用。アメリカ・カナダの自然環境, 資源, 先端産業, 農業・農作物, 都市, 国際機関などについて問われた。(7)アメリカ合衆国の都市に本部を置く国際機関はやや細かな知識が必要。	やや易
II	マーク式	南アジア地誌	南アジア地域の自然環境, ハイサーグラフ, ネパール・ブータン・モルディブ全般の正誤判定, 各国の宗教, インドの農業, 国際人口移動, 日本とインドの関係などについて問われた。(3)ネパールとブータンの政体, (4)モルディブの首都の位置, (8)RCEPの参加国などやや細かい問題もみられるが, 他の選択肢の正誤判定をもとにして正答は導ける。(7)の国際人口移動の行き先国はやや難しい。	やや難
III	マーク式	農林水産業	各農業区分の特徴, 世界各地の農業, 農作物自給率, いくつかの農産物の収穫量上位都道府県, 日本の果実輸入統計, 家畜, 世界の林業, いくつかの国の水産業統計などについて問われた。統計問題が多く, 日頃から統計に慣れ親しんでいない受験生は判定に迷う場面も多かっただろう。	標準
IV	マーク式	気候・生活・文化・社会	世界地図利用。海流, 気候と生活, 食文化, 衣食住, 宗教と食文化, 公用語, 旧宗主国などについて, 地域を限定せずに幅広く問われた。標準的な設問が多いが, (6)宗教と食文化は, ユダヤ教のチーズバーガー (肉と乳製品の食べ合わせ) の禁忌などやや難しい。	標準
V	マーク式	人口	6大州の人口推移, 各国の自然増加率の推移, 日本の出生数と合計特殊出生率の推移, 各国の65歳以上人口割合の推移, 各国における流入外国人人口上位国, 日本の在留外国人・難民, 日本の主要都市の転入超過人口の推移, 日本の都市地域における人口変動について, おもに図表を用いて問われた。論理的に正答を導く能力が試されており, 単なる用語の暗記では対応できない設問が多い。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年地誌を中心とした出題が多い。教科書では扱わないような細かな国についてもある程度の知識（自然や気候・宗教・民族・経済・政体など）を身につけておく必要がある。ただし、それらの知識は基礎的事項の延長線上にあるに過ぎず、常にそれらの事項や背景を論理的に整理しておくことが入試対策の近道である。統計や地図を用いた出題が多いのが本学の特徴であるため、最新の統計を確認しておき、地名（山脈や河川、海域などや国・都市）と地図上の位置を一致させておくことが求められる。地理用語の正確な理解も必須である。教科書や用語集などを用いてしっかりと確認しておきたい。また別日程や過去の出題傾向をみると地形図の出題も考えられるので、地図記号なども含めてしっかりと学習しておきたい。最後に、例年類似した問題が出題されているため過去問研究も必須である。常に地図帳と統計を傍らにおいて総合的な学習を心がけよう。